

計画の具体的な展開

第5章

- 重点分野1 生きがいづくり
- 重点分野2 介護予防・生活支援
- 重点分野3 持続可能な介護サービスの提供
- 重点分野4 在宅医療の充実と医療・介護連携の推進
- 重点分野5 認知症高齢者等に対する支援の充実
- 重点分野6 高齢者の権利擁護
- 重点分野7 ケアラーへの支援
- 重点分野8 高齢者に安全・安心な地域づくり
- 重点分野9 介護人材の確保・定着
- 重点分野10 地域包括ケアシステムの深化

重点分野1 生きがいづくり

高齢者の介護予防や健康寿命の延伸につなげ、また、地域の活力が維持できるよう、高齢者自らの希望に応じた仕事やボランティア、学び、趣味活動などの社会参加を推進します。

取り巻く状況

- 本県では、生産年齢人口が減少するとともに、全国平均よりも早く高齢化が進んでおり、本県の65歳以上の人口は、2025（令和7）年には、44万人でピークに達し、県民の3人に1人が高齢者になると見込まれています。
- 「人生100年時代」が到来すると言われる中、これまでの高齢期の「余生」という位置付けは、「第二の人生の到来」又は「現役期間の延長」へと大きく変化しています。
- 高年齢者雇用安定法が改正された影響もあり、本県の60歳以上の就業率は年々上昇しています。

	60～64歳	65～69歳	70～74歳
本県の年齢別就業率	68.4%	47.7%	31.6%

（令和2年国勢調査）

- 国の調査では、スポーツやボランティア、趣味関係のグループ等への社会参加の割合が高いほど、転倒や認知症のリスクが低い傾向がみられます。

（1）社会活動への参加促進

目指す姿

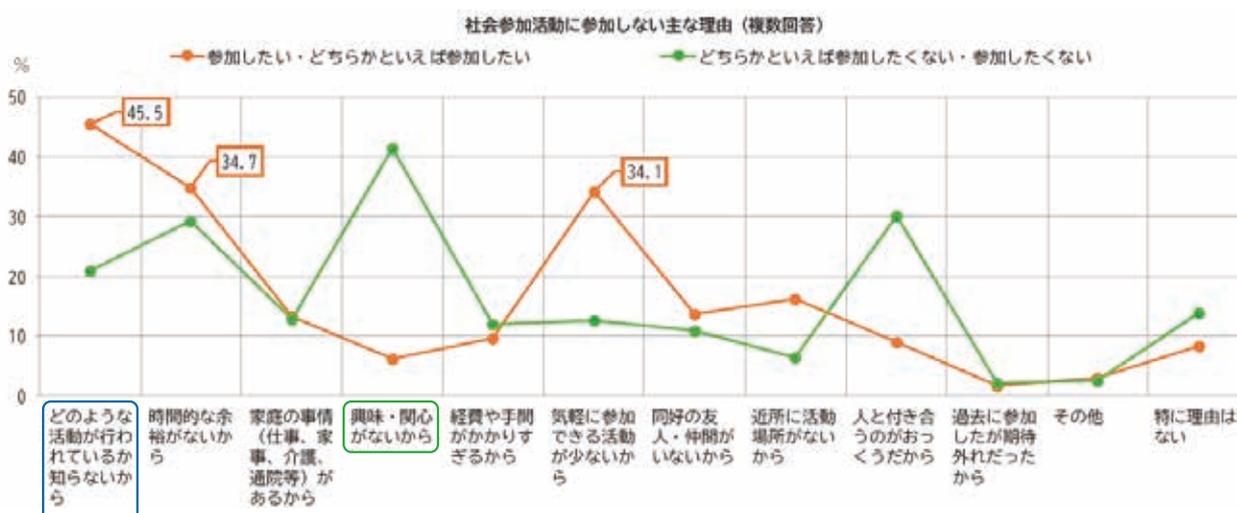
- 社会参加を通じて「生きがい」「つながり」「役割」を得ることにより、健康で意欲を持ち続けながら生活することができる。

本計画における目標	基準値	目標値
社会参加などについて幅広く相談できるワンストップ窓口を通じて社会参加につなげた件数	194件 (R4)	600件 (R8)
老人クラブ加入率全国順位	13位 (R3)	10位 (R8)
長崎県ねんりんピック・全国健康福祉祭の参加者数	2,903人 (R4)	4,200人 (R8)

① 高齢者の社会参加支援

現状と課題

- 社会参加には、就労やボランティア活動、自己啓発活動（趣味や学習）、スポーツ活動、友人等との交流など、様々な形があります。
- その中から、高齢者が自ら望む社会参加を行うことで、生きがいにつながり、生活の質が向上することで、介護予防や認知症予防にもつながります。
- 定年延長などもあり、60歳代は就労されている方が多いなど、年代によっても希望する社会参加の形態が異なることから、多様な高齢者のライフスタイルやニーズに応じた社会参加の機会の提供が必要です。
- 全国より早く人口減少や高齢化が進む本県では、高齢者が地域社会を支え合う一員として、社会の中で役割を担っていくことが、以前にも増して期待されています。
- 高齢者が長年培ってきた知識や経験を活かし、地域社会の担い手として活躍することは、本人の生きがいとなるだけでなく、地域社会が抱える課題の解決や活力ある社会の形成にもつながります。
- 社会参加活動に参加しない理由を尋ねた調査では、参加意欲のある方では「どのような活動が行われているか知らないから」が、参加意欲のない方では「興味・関心がないから」が、最も多く挙げられています。



<出典：令和5年版 厚生労働白書>

今後の取組

- 高齢者の社会参加に関するワンストップ窓口として設置した「ながさき生涯現役応援センター」において、個別相談など相談者の希望に応じたきめ細やかな支援を行うとともに、各地域で意識啓発セミナーを開催します。また、市町や市町社会福祉協議会等と連携し、活動に関する情報提供や活動先とのマッチング支援を行うなど、実際の活動に結び付けます。
- 「スマホ講座」など、高齢者の興味・関心がある内容をテーマとしたセミナーを開催し、地域や社会とつながっていない高齢者の社会参加を促進します。
- 社会参加の裾野を広げていくためには、身近な市町においても、高齢者が気軽に相談できる場を設けることが有効であるため、各市町に対し、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートする「就労的活動支援コーディネーター^{*}」等の配置や相談窓口の設置などの体制整備を働きかけます。
- 県民ボランティア活動支援センターにおいて、ボランティアの募集や活動事例紹介等の情報提供を行うとともに、ボランティア団体等の組織基盤強化を図るための研修・講座等を実施します。
- 日常生活支援や介護予防に資する活動など、地域で優れた活動を実践している高齢者団体等の表彰を行うことにより、さらなる活動の活性化を促すとともに、その活動内容をPRすることにより、他地域での活動の実践を促し、新たな活動の創設や活動団体の担い手不足の解消につなげます。

^{*} 就労的活動支援コーディネーター：役割がある形で高齢者の社会参加等を促進するため、就労的活動の場を提供できる民間企業等と就労的活動を実施したい事業者等とをマッチングし、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートする者。

<コラム>ながさき生涯現役応援センター【社会参加応援宣言！】

ながさき生涯現役応援センターにお気軽にご相談下さい！！

<社会参加に関するワンストップ相談窓口>

- 支援員がご希望やライフスタイルなどを丁寧にお伺いし、社会参加について一緒に考え、情報提供などを行います。

<社会参加に関するセミナー開催>

- 社会参加を応援するセミナーを県内各地で開催しています。活動情報も併せて提供しています。



利用者の声

【センターを利用したきっかけ】

- 定年退職後に何か新しいことを始めたいと思っていました。会社員時代には体験できなかったボランティアなど、社会に貢献できる活動に参加したいと思い探していたところ、「ながさき生涯現役応援センター」のポスターを目にし、相談にのってくれるかなと思い、電話をかけてみました。

【センターを利用した感想】

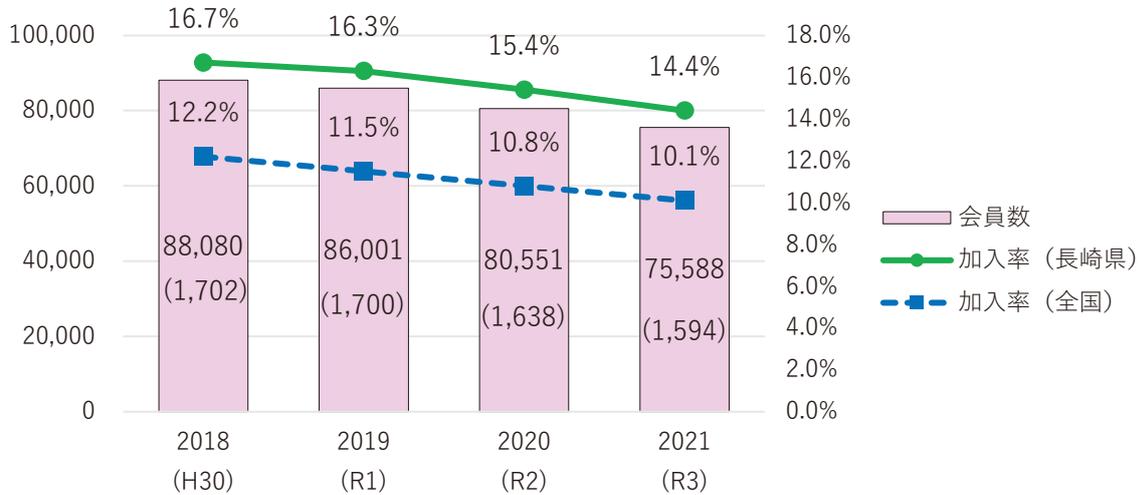
- 私の希望を丁寧に聞いていただき、希望に沿った幅広い情報をいただけたのが良かったです。そのおかげで、自分のやりたいことが見付き、現在の活動に繋がっています。

② 老人クラブ活動の促進

現状と課題

- 老人クラブは、地域を基盤とする高齢者の自主的な活動組織であるとともに、全国規模のネットワークをもつ組織であり、スポーツや文化活動をはじめ、一人暮らしの高齢者等への見守り・生活支援、交通安全や環境美化活動など、幅広い活動が行われています。
- その活動は、高齢者の健康を維持し、人生を豊かにし、さらには地域の支え合いの輪を広げていくものであることから、人生100年時代、生涯現役社会の実現に直接つながる重要な取組であると考えられます。
- 一方で、高齢者の就業者数の増加、活動の多様化及び地域のつながりの希薄化などを反映し、老人クラブ数、会員数ともに減少傾向が続いています。

老人クラブ会員数と加入率



出典：厚生労働省福祉行政報告例に基づき算出。適正クラブ及びその他のクラブの合計数。

注：（ ）書きは老人クラブ数。

老人クラブの加入率・全国順位

	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
加入率（長崎県）	16.7%	16.3%	15.4%	14.4%
加入率（全国）	12.2%	11.5%	10.8%	10.1%
全国順位	15	13	13	13

今後の取組

- 老人クラブで行われる高齢者自らの生きがいを高め健康づくりを進める活動やボランティア活動をはじめとした地域を豊かにする活動を支援します。
- 将来にわたって活動を継続していくためには、一定規模の老人クラブ数・会員数の維持が必要です。県・市町老人クラブ連合会等とともに、時代の変化に対応した活動の活性化や、様々な高齢者ニーズに応えられる組織づくり等のための具体的方策を検討し、老人クラブの会員数維持に向けた取組を支援します。

③ 長崎県ねんりんピックの充実

現状と課題

- 高齢者のスポーツと文化活動を通じて、健康の保持・増進と生きがいの高揚を図るとともに、高齢者相互及び地域間の交流を促進することを目的に「長崎県ねんりんピック」を開催していますが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、2020、2021（令和2、3）年度は大会を中止にしたこと、及び重症化リスクが高い高齢者の活動自粛の影響等もあり、

2022、2023（令和4、5）年度の参加者は、コロナ前と比較し減少しています。

- 高齢になってからでも始められる軽スポーツ（ペタンク[※]、グラウンド・ゴルフ及びゲートボールなど）について、その競技人口に占める割合が高い老人クラブの会員数が、年々減少しています。
- レクリエーションの一環として気軽に楽しむことを目的としたニュースポーツなど、（競技）種目が多様化しています。
- 少子高齢化や地域社会の人間関係の希薄化が進む中、孤立・孤独を防止するためにも、スポーツや文化活動を通じた、「人と人とのつながり」や「地域の絆」が大切です。

今後の取組

- 長崎県ねりんピックを開催するとともに、全国大会である全国健康福祉祭（ねりんピック）への長崎県選手団の派遣を支援します。
- 競技種目も多様化しており、より多くの高齢者に参加してもらうため、全国健康福祉祭の採用種目などを中心に、県ねりんピックの種目への採用を検討します。
- シニア競技の競技人口等の拡大を図るため、市町や県・市町老連等と連携し、高齢者がスポーツや文化活動を始めきっかけづくりに取り組みます。

④ ながさき県民大学の充実

現状と課題

- 「ながさき県民大学」では、生涯学習の場として講座や体験活動の情報を提供しています。高齢者世代が増加していく中、各々が健康で生きがいのある人生を送るため、生涯を通じて個々のニーズに応じた学習等を行い、積極的に地域社会との関わりを持っていくことは大変重要となっています。

今後の取組

- 「ながさきまなびネット」により、講座情報をはじめとする生涯学習関連情報を発信することで、県民に学習機会を効果的に提供します。
- 市町、高等教育機関や民間教育事業者等とより一層の連携を図り、高齢者の個々のニーズに応じた講座の発掘及び広報に努めます。
- 県立学校や図書館等、様々な場所で講座を実施し、高齢者が足を運ぶことで、教育活動への理解や参画に繋がります。

[※] ペタンク：コート上に描いたサークルを基点として木製の目標球に金属製のボールを投げ合って、相手より近づけることで得点を競うスポーツ。

(2) 高齢者の就業機会の拡充

目指す姿

- 働く意欲のある高齢者が、個々の能力・事情に応じた様々な働き方を選択できる。

本計画における目標	基準値	目標値
長崎県人材活躍支援センター新規登録者の就職率	—	40% (R6)

① 長崎県人材活躍支援センターにおける就業支援

現状と課題

- 企業は 65 歳までの安定した雇用を確保する義務があるほか、高齢者が活躍できる環境の整備を目的として、70 歳までの定年の引上げや継続雇用制度なども努力義務として設けられています。
- 本県における高齢者人口の割合（2021（令和 3）年人口推計）は 33.6%と全国平均 28.9%よりも早く高齢化が進む一方、高齢者の就業率（2020（令和 2）年国勢調査）は 25.0%と全国より 1.5 ポイント下回っています。

今後の取組

- 「ながさき高年齢者雇用推進フォーラム」を開催し、高齢者雇用の意識啓発を図ります。
- 長崎県人材活躍支援センターにおいて、求職者のニーズに応じ、個別カウンセリングや、適職診断、求職者向け各種セミナーなどの就業支援を実施し、年齢にかかわらず働くことができる社会の実現を目指して取り組みます。

② シルバー人材センター支援

現状と課題

- 高齢就業者は、自分の都合のよい時間に働きたい、家計の補助・学費等を得たいなどの理由から、非正規雇用形態の割合が高くなっています。
- ライフスタイルやニーズの多様化があり、それに応じた就業や社会参加の機会拡大が求められています。

今後の取組

- シルバー人材センターが職場の開拓などによる仕事量の確保や会員数を確保し、短期で臨時的な仕事を提供していくための支援を行います。

③ 農業・漁業分野の労働力の調整・確保

現状と課題

- 農業分野において、担い手の高齢化や減少が進んでいる中、高齢者等多様な人材が農業生産に関わり活躍することが期待されています。
- 漁業分野において、漁業就業者の減少に歯止めがかからず、高齢化が進行しているため、漁村地域の活力が低下しています。

今後の取組

- 農業分野の労働力の調整・確保
 - ・ 高齢者を含めた労働者が働きやすい就労環境の整備や作業の細分化などを進めることで、労働者の就労環境の改善と就労機会の創出を図ります。
- 漁業分野の労働力の調整・確保
 - ・ 漁業の魅力や情報の発信、漁業への就業相談や移住相談により高齢者を含む幅広い年代の漁業就業希望者の呼び込み、漁業就業前後の技術習得研修や経営開始後の定着促進と離職防止により、漁業就業者の確保・育成を図ります。